

岩見沢市

緑の相談コーナーだより

NO. 327 2012. 9. 1 発行

岩見沢市志文町 794 番地

いわみざわ室内公園「色彩館」

身近な樹木 “ヤマボウシ”（山法師） ～どことなく寂しげな白い花が咲く～

ヤマボウシは、ミズキ科ミズキ属の落葉高木で、苞が淡紅色のベニヤマボウシや苞の大きなハナヤマボウシなどの変種もあります。本州各地や四国、九州、朝鮮半島、台湾、中国の温帶～暖帶に分布し、適潤な緩傾斜地や谷間に自生します。なお、京都府の丹波や丹後の山中には変種が多いと云われます。最近では、北海道でも庭園や公園に植栽されており、岩見沢市内でもよく見かけるようになりました。高さは5～10mで、7月初旬頃になると枝先に長い柄を伸ばし、その先端に花をつけます。2～4cmの白い四枚の花弁のように見えるものは総苞片で、本来の花は、その中心にある淡黄色の小さな花です。これが秋になると果実となって赤く熟します。

植物名の由来は、ヤマボウシの花の形状から名づけられたものと云われ、丸い蕾の集まりを法師の坊主頭に、白い総苞をその頭巾に見立てての名前です。なお、東北や関東などでは、実がクワに似ているので、ヤマグワと呼び、北陸、近畿、山陰などでは、イツキと呼ぶ方言があります。小枝の出方がミズキに似ていることから、小正月の繭玉や団子挿しに使われ、「だんごぎ」と呼ぶ地方もあります。なお、ヤマボウシの木は、箱根の芦ノ湖周辺の山や静岡県の天城山に特に多く、見どころとしても有名です。

欧米には 1847 年に紹介され、アメリカでは 1860 年から植栽しています。最初にアメリカに渡ったヤマボウシは、アーノルド植物園にあり、同じ地方では、ハナミズキよりも半月遅れで花が咲くそうです。耐寒力があるので、ボストンでも開花し、1926 年のボストン市花卉展覧会で一等賞を得たことがあります。アメリカではコウサの名で園芸店で盛んに流通し、庭園樹として好評を得ていますが、なぜか日本では最近まで、ほとんど用いられ



Benthamidia japonica HARA
ヤマボウシ

できませんでした。

材質と用途ですが、辺材は淡紅褐色で心材は帯紅褐色と、あまり区別は明瞭ではありません。材は重硬で割れにくく、用途は槌の柄や農機具の柄、鉋台、櫛、旋作材などとして用いられます。なお、完熟した果実はクワの実に似ており、生食されます。

栽培法は、挿し木も可能ですが、ふつうは実生育苗によります。赤熟して落下した果実を拾い集めるなどし、果肉を水洗除去して精選し、とりまきするのが最も良いでしょう。

雨去って白眉の花の山法師 米谷 静二

霧深く恥らふごとく山法師 菖蒲 あや



バラ園



公園だより

先月までは、来年度のバラサミットに向けて、リニューアルの工事が忙しく進められていたバラ園ですが、今月は、中央バラ園など一部の工事が終わって、中旬頃には観賞して頂くことが可能となる予定です。中下旬の秋バラの季節には、半分くらいのバラ花壇を楽しんで頂けるのではないかと期待しております。通常、秋バラは初夏の一番花をしおぐ、魅力的な姿を見せてくれます。色彩も香りも気品に満ちあふれた北国の秋バラが、微風に揺れる姿は見る人の心を虜にします。ぜひバラ園に足を運んで頂き、秋バラを楽しんで頂きたいと思います。

♥**今月のバラ園からの一口メモ**は、バラに被害を与えるハチ類についてです。バラクキバチは体長 15 mmほど、黒色のハチで、雌はお腹に橙黄色の帯があります。茎の髓に産卵し、幼虫が食い込むと水分が上がらなくなり、若枝の先が萎れてしまいます。被害枝は早く切りとり焼却します。的確な予防法がありませんが、大事な花なら蕾の下 3 ~ 12 cmを紙テープなどで覆い、産卵を防ぎます。また、黒い半透明の羽をもったチュウレンジバチは体長が 8 mmほどで、幼虫が若葉に群がって食い荒らします。幼虫は薬剤に弱いですが、産卵中の成虫は動作が鈍いので、こまめに見回り捕殺するが一番です。葉を円形に切り取っていくバラハキリバチは、予防は難しいですが、同じ場所に何度も来る習性があるので、マラソンなどの忌避粉剤をまきます。

室内公園色彩館では、ツルバラやモダンローズが咲いていますが、他の花はひと休みといったところです。でも、ハナミズキがもう来年の花蕾を準備しています。

南国温室では、極彩色の異空間を演出する極楽鳥花（ストレリチア・レギナエ）の花が咲き、バナナの実が少しずつ大きくなっています。またレモンやパキラ、パパイアなどの実も穂ってきております。パパイアは熱帯および亜熱帯アメリカ原産の果樹ですが、乳液に含まれるパパインは生肉の軟化剤などとしても利用されています。ここでは南国の雰囲気を十分楽しんで下さい。

相談日記

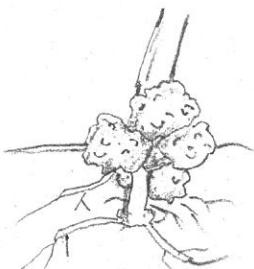
問 樹木の幹や枝にできるコブについて伺います。庭木の幹にゲンコツのようなコブができているのを発見しました。何か病気にかかってしまったのでしょうか？心配です。また、公園のサクラの木の枝にも小さなコブのようなものがたくさんついているのを見かけます。このようになる原因や対策、予防法などがあれば知りたいのですが。

答 枝にコブができたからといって、病気が発生したとは限りません。剪定によってコブができることもあります。広葉樹などでは、枝を切るとたくさんの胴吹き枝が出ることがあり、この胴吹き枝を毎年切るとだんだん先端がコブ状になります。このようなコブは、プラタナスなどの街路樹でよく見かけます。また、接ぎ木をした樹木は、台木と穂木との接着部分が盛り上がって、コブのように見えます。

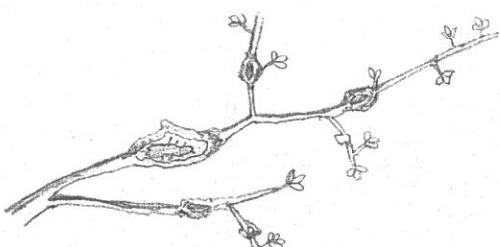
しかし、地際部にできたコブは要注意です。根頭がんしゅ病という病気におかされている可能性があります。この病気は効果的な対策もなく、発病すると根や地際部にコブができ、樹勢がだんだん悪くなって、最後には枯れてしまう恐ろしい病気です。マツやサクラ、フジの枝や幹に茶色っぽいコブができた場合は、コブ病の被害も考えられます。このコブは年々大きくなり、細い枝にできたコブは串に刺した団子のように見えます。樹木が枯れてしまうほどの被害はありませんが、成長が悪くなるので取り除く必要があります。

治療と予防のポイント 剪定や接ぎ木によってできたコブは、病気ではないのでそのままにしておいてかまいません。根頭がんしゅ病やコブ病は、発病してからではどうすることもできません。根頭がんしゅ病は、株ごと焼却処分し、周囲の土やハサミなどの作業道具も消毒しましょう。コブ病の場合は、コブを取り除き、同じく焼却処分します。なお、切り口は消毒して、癒合促進剤などを塗布します。

予防措置としては、剪定によりコブを作らないように、透かし剪定を心がけます。病気によるコブは、苗木の購入に当たつてコブなどがついていない健康な苗を選ぶことが大切です。



根頭がんしゅ病



サクラの細枝にできたコブ病

生育旺盛なヒマワリの仲間～キクイモ 花言葉 元気



キク科ヘリアンサス属の多年草で、アメリカ東部の原産です。日本には明治の初めに入ったといわれ、ときに庭に植えて観賞されますが、繁殖力が強いので各地で野生化し、とくに北海道では固有の植物のように繁茂しています。

やせ地や荒れ地でもよく育ち、庭植えの場合は生育旺盛で、はびこりやすいので、植え付け場所には注意が必要です。葉柄には翼があり、秋に茎の上部で多数分岐し、径8cmほどの

黄色い頭花を開きます。地下茎があり、その先端が肥大化して塊茎となります。もともとこの塊茎をとるために導入され栽培されました。食用にもされますが、あまり美味ではなく、家畜の飼料とされてきました。また、イヌリンを多量に含むので果糖製造の原料とされ、その目的のため多数の品種が育成されていました。和名の菊芋はキクのような花が咲き、地下に芋ができるからつけられた名前です。鉢植えの場合は、芋が小さくなるので、コンテナやプランターで育てると良いでしょう。

9～10月の園芸講座・行事案内

市民園芸講座の内容紹介

♣バラの押し花作り I

日時 9月 2日(日) 13:00～15:00

講師 押し花アーティスト 宇田川静子さん 定員 30人 材料費代 I・II



♣バラの押し花作り II

合わせて 2600円

日時 9月 9日(日) 13:00～15:00

講師 押し花アーティスト 宇田川静子さん 定員 30人

♣楽しいキノコの見分け方

日時 9月 23日(日) 13:00～15:00

講師 北海道自然保護協会 伊達佐重さん 定員 40人 参加料 無料

♣収穫野菜の加工・貯蔵

日時 10月 7日(日) 13:00～15:00

講師 (有)アグリカルチャーひろし 北村博さん 定員 40人 参加料 無料

編集・発行 北海道グリーンランド（空知リゾートシティ株式会社）

お問い合わせは 室内公園「色彩館」緑の相談コーナー 25-6111まで